

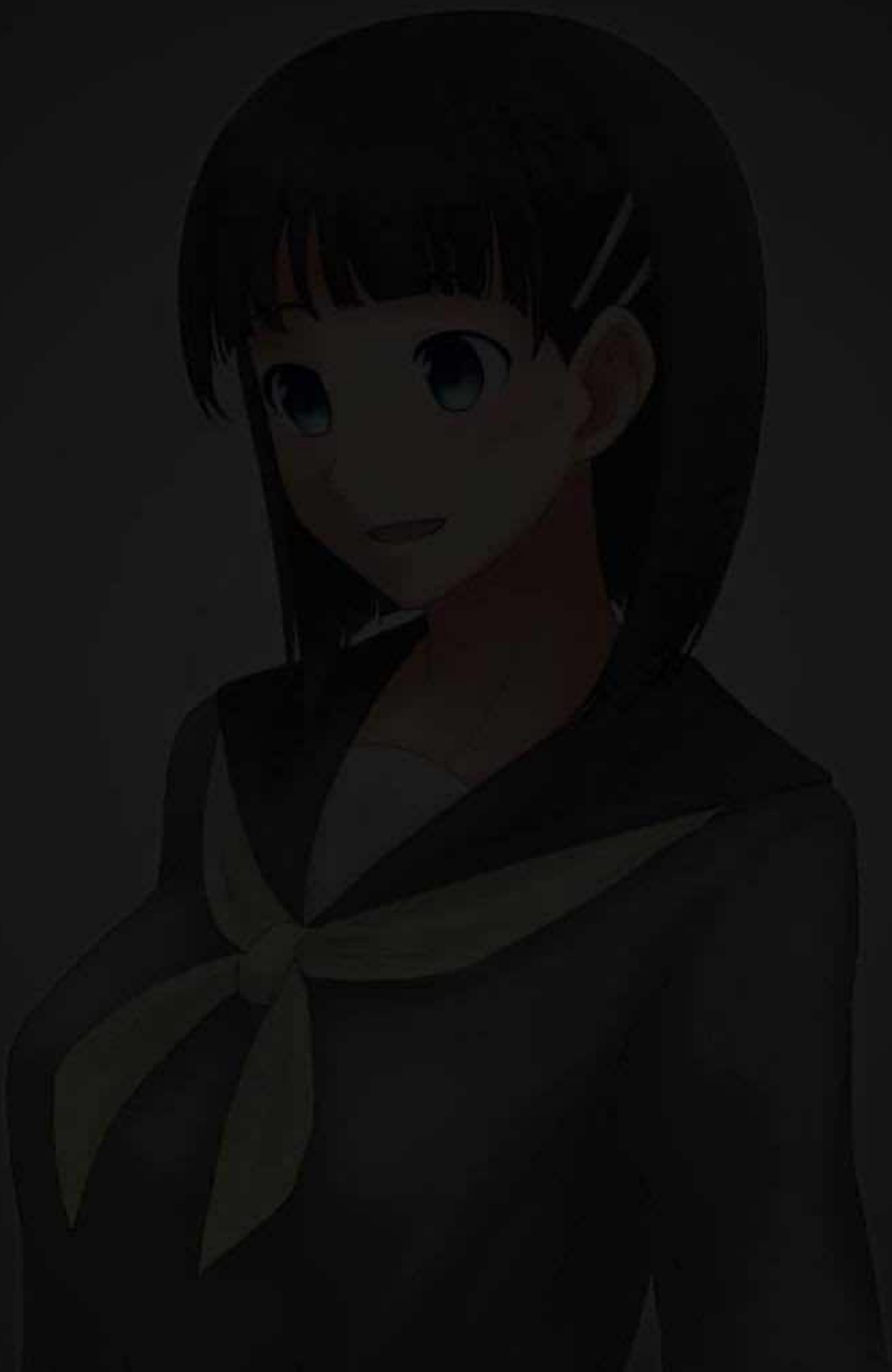


可愛い娘は
汚したい

皆さんどうも。

僕の名前は——そんなことはどうでもいいか。

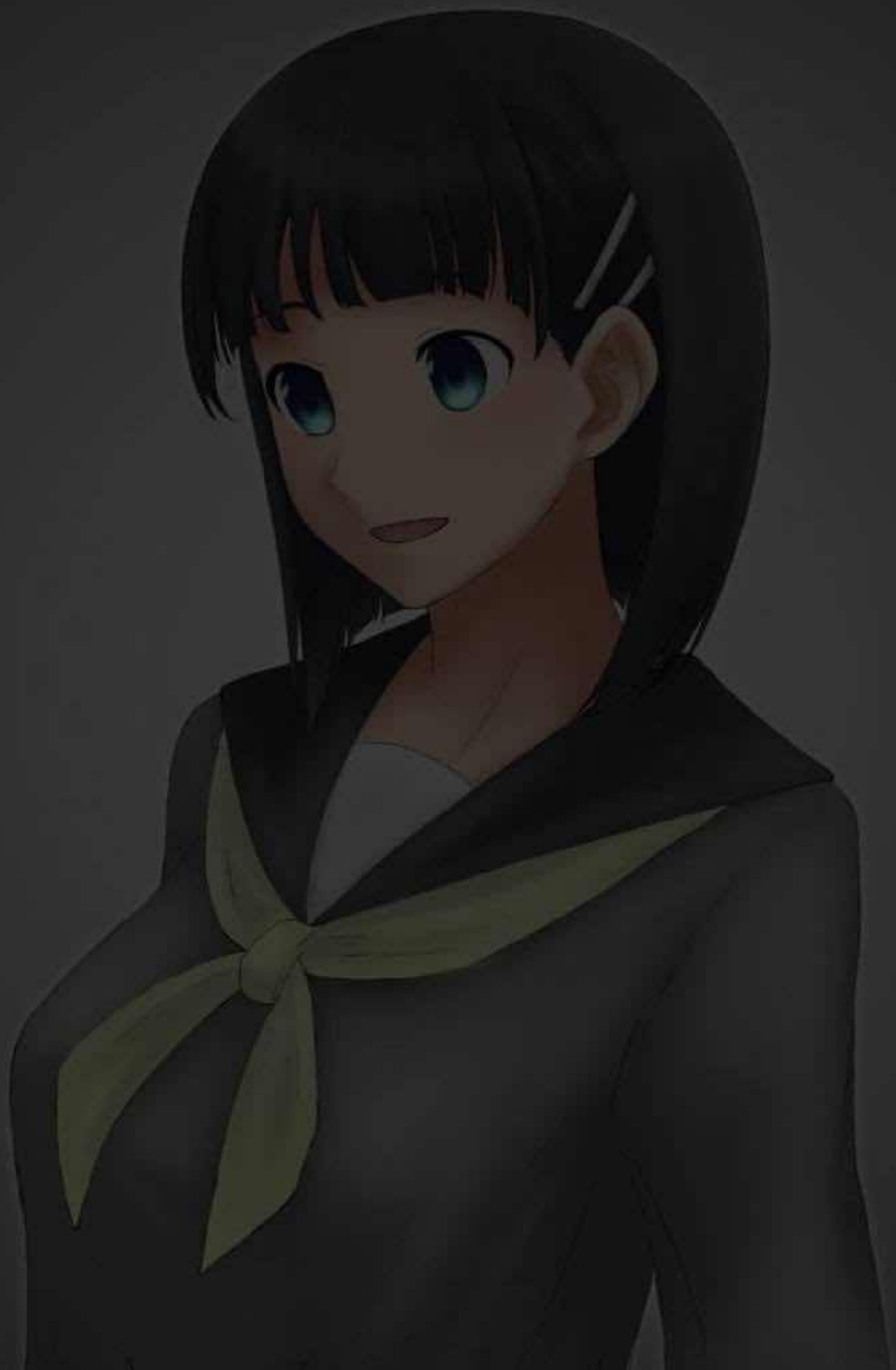
種付けおじさんっているじゃない？その親戚みたいなものだ。



突然だけどこの娘を見てほしい。可愛いよね。
清純そうに見えて豊かな胸。



おじさん、こういう娘を見るとすごく汚したくなるんだ。
わかる人はわかると思う。それを実行に移す人がどれだけいるかは別にして。
それを軽率にやっちゃうのが僕だ。



そういうわけだから、早速行ってこよう。

待っててね純情生娘ちゃん！

「はーい、かわいい子ちゃんこんにちははーい！」

「えっ、なんっ、えっ……!?!」

「はい、拉致されて混乱してる間に服、全部引っ剥がしちゃいましたー！」

「キレイなおマ凹コだね！直葉ちゃんはエッチはまだ未経験かな？」

「な、なんで、名前……！」

ド

ガッ

「知ってるよー名前くらい。君をしつかりレイプできるように、君の情報はリサーチ済みだもんね」

「あーダメダメ暴れても。おじさん痩せてるけど女の子の大切なところをむりやりちんちんでズポズポするくらいの筋力は備えてるから！」

「ひっ……だ、誰か——」

「残念、この部屋は女の子を犯すための部屋、防音機能は完璧なのよねー。どんなに助けを求めても誰も来ない。」

「直葉ちゃんはここで、おじさんにオマ凹コ捧げちやうんだね」

「い、いや——いやあああっ——」





「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「はーい、叫んでも何も変わらないーい」

「残念だねー、直葉ちゃん。
こんなキモいオッサンの汚いちんちんで綺麗なオマンコ汚されちゃったね」

「あ……ああ……」

そんな……

「うん？あ、直葉ちゃん処女だったの？

そっか、いままで大切にヴァージンを守り続けてきてたんだね。

でも残念、好きな男の子に捧げたかったその処女、

汚い男に奪われちゃいました。

処女膜、オジサンのチンカスマみれのチンコで破られちゃったね」

「うう、私の、初めてが……」

ズキ
ズキ

「あー、チンカスを初物の未使用女性器にすりこむの最高」

「キレイなおマ凹コをドクサレ中古汚マ凹コにしてあげるからね」



「あー、ザーメンのぼって来た……
出すよ直葉ちゃん、初セックスで初中出し！
子宮に精液流し込むからね！」

「えっ、やっ中はダメっー！」

「あー出る出るっ」





「あー、気持ちいいー……初物マンコに強制中出しっ……」

「ああ……赤ちゃん、できちゃおう……」

あ
あ

「大丈夫大丈夫、一回くらいじゃできたりしないよ
だからこれから何回も何十回も中出しして
オジサンの精子で直葉ちゃんの卵子を強制受精しようね」

「それじゃあ手始めに二回戦始めようか」

「いやあ……」

マンコ



「どんどん行くよー直葉ちゃん。」

直葉ちゃんのおマンコのおじさんのチンチンで変形させてくからね」

「清纯な美少女がレイプ魔に犯されて孕まされて
お腹膨らませてる姿想像するとまた精液が溜まってくるよ」

「いやあ……助けて、お見ちゃ……」



「ダメだよ直葉ちゃん、兄妹はセックスできないんだから」

「近親相姦なんて不純なことを考える悪い子には
おじさんが熟成した特濃ザーメンでお仕置きだね」

「もう一度出しちゃったし、一回も一回も変わらないよね」

「直葉ちゃんのオマンコに精液の臭いを染みつけてあげるよ」



「ああ出る……ッ」



「でもまだ終わらなっしょー」

「いいよねえ、女の子は使えるところがいっぱいあって」

「えっいやそっちは違ー」





「はら、ぞおれー」

はらぞおれー

はらぞおれー

はらぞおれー

「うわーキツツキツだな」

「あ……うぐ……」

「はい力抜いてね、おしり裂けちゃうよ」

「その歳その顔で痔っていうのもオジサン的には面白くていいけどねー」



「あー、このちもいいね」

「……あ、ぐ、止まる……」

「直葉ちゃんこれ、肉オナホの才能あるよ」

「このちも出さずよー。処女アナルにザーメンでマーキングだ」

「……あ、待」

あー

おは

ア
ク
リ

ク
リ

ク
リ





オッ

ビビ

ウウ

クク

カク

ウウ

ビビ

カク

ウウ

カク

「ふー。よかつたよ、直葉ちゃんの初アナル」

「これで直葉ちゃんのおしりもメス穴デビューだね」

「……あ、ああ……」

「これからうんちをひりだす度に絶頂しちゃう下品な淫乱ケツイキマンホールになるうね」



「はい、気がとんでる内にチクつとね」

「いっ——な、なにを」

「いやあ、あんまり綺麗なおっぱいだから、少々不満でね。
おじさん好みの不格好なエロ乳首にしてあげようと思って」

「は……？」



「直葉ちゃんの乳首、勃起してきたね」

「……」

「触ってもいないのに固くしちゃうなんて直葉ちゃん変態だね」



「……変な薬打ったせいでしょう」

「さて、どうでしょうねえ」

「まあただの媚薬だったらまだましだったのかもだけど」

「な、にを……」



「こうやって先っぽを押しつぶせば……どう、なにか感じるでしょ」

（何……？ 先が、それに胸の中が異様に熱く）

「んあ……っ！な、な」

「うん、きれいにずっぷり行ったね」

「こんな、こんなこと」

「元々の乳腺を變形させて、溶かして、突き破って。そうしてこんなふうに乳首穴が拡張できるんだ」

チ
ク
ッ
ッ
ッ

チ
ク
ッ
ッ
ッ



「これで直葉ちゃんも奇形おっぱいとしての生活が始まるね」

「ほら、もっとグリグリしてどんどん開発しようか」



「やめっ、ナカ、敏感に……っ」

「本来あるはずのない刺激だからねー。存分に楽しんでね」

「んぐう……っ」



「はい、指を抜いても穴ぼっかり」



「乳首ほじられてイっちゃうなんてド変態だねえ」

「やだ……わたしのおっぱい……戻してえ……」

「それじゃあ、こっちの乳首は乳首らしくしゃぶってあげるね」



母乳

「右の乳首がああなったということとは、
吸い付かれた乳首がどうなるかは、想像がつくかなふふふふ」



じゅるっじゅるっあむあむっむぢゅっ

(気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪いキモチワルイ)



（数十分後に開いた胸の傷口から毒が漏れ出し、ヤマトワルイ）

数十分後

じゅるっじゅるっあむあむっむちゅっ







んばあっ

「あは、やったね直葉ちゃん」

「ぽつんとしてたきれいな乳頭が
おじさんにちゅうちゅう吸われてでるんでるんだ」

「これで左右不揃いの奇形乳首デビューだね」

「これから立派なグロ乳首目指してがんばろう、直葉ちゃん」



「どんどん綺麗な身体、台無しにしていくこうねえ」

放課後、教室より

同級生の会話

]

A 「桐ヶ谷かわいいよな」

B 「胸でかいし」

C 「わかる」

A 「そういう話じゃねーんだが」

B 「でもやるならああいうのがいいじゃん」

C 「セックスのための身体だよな」

B 「乳わしづかみしながらマンコずぼずぼしたい」

C 「わかる」

A 「あのさあ……」

C 「でもあの胸はチンコ勃つじゃん」

A 「まあな」

「wwwwww」

C 「そっぴや俺のカノヅヨが言つてたんだけど」
B 「でた彼女自慢」
C 「そっぴやうんじゃねーよ」
A 「でなによ」
C 「こないだクラスの女子で旅行行つたらしいんだけど」



C 「桐ヶ谷の乳首なんかヤバいらしいよ」
A 「何ヤバイって」
B 「めっちゃ黒いとか？」
C 「いや色は聞いてないけど」



- C 「なんか乳首の先の形めっちゃエグいんだって」
- B 「なにそれおもしろ」
- C 「なんか片方でかいレーズンみたいにブリっとしててももう片方はびるびるらしいよ」
- B 「なにそれやっぱw」
- A 「奇形じゃん」



B 「左右で形変わるとか何したんだよマジで」
C 「オナニーで乳首つねりまくって伸びたんじゃね」
A 「やばW超変態じゃん」
C 「乳首オナニーにハマって毎日乳首いじって開発済みなんだろ」
A 「グロ乳首はやばいわー……萎えるわ」
B 「え俺はむしろ興奮するわ」
C 「マジかよ」



B 「奇形乳首押しつぶしながら犯したい」

A 「おまえ……なんかすっげえな」

B 「今度呼び出して出会い頭に桐ヶ谷の乳首ねじってみようかな」

A 「それはヤバイわW捕まるでしょ」

C 「いや開発済みだし一瞬でイクでしょ」

B 「突然他人に乳首つねられて潮吹きW」

「WWWWWWWW」

「あぁいいよー」
「後ろからズポズポ突かれて喘いでるの可愛いねえ」

「んぐう、あ、あうう……」







んんんんんんんんんん

あ

「ち、違……んんんんんんんんんん」

「自分のあげてる喘ぎ声で興奮してるんでしょ、この淫乱め」

「まったく、すっかりオチンチンで気持ちよくなること覚えちゃって」
「せっかくの美少女もこれじゃあ性に溺れるただのメスだね」

!!!
!!!
!!!
!!!
!!!
!!!
!!!

!!!
!!!
!!!
!!!
!!!
!!!
!!!

「普通こんな乱暴にオマシコ突かれたって痛いだけだから。こんなのであん喘いじやう直葉ちゃんみたいのは素質持ちの、根っからの肉便器だよ」

「その胸からぶら下げたたわわなおっぱいも、赤ちゃんのためじゃなく男を欲情させるために、男を勃起させて自分の蜜壺に突き入れてもらうためのもの」

「だからそんなにいやらしく大きく実ってるんだ。直葉ちゃんの本質として犯されるための生き物なんだよ、わかるかな」

あ、あ、

「ちが、う、私は、そんなんじゃない……あんっ」



「口で否定しようと気持ちよくなっていることがその証拠なんだけどね」

「ああ、そろそろいきそうだね。おじさんもイクから中出しでいけ！」
「子宮汚されて絶頂しろ！」

あーん

んあ

IP
ニ

IP
ニ
IP
ニ
IP
ニ

IP
ニ
IP
ニ
IP
ニ

ん
あ
ん
あ
ん
あ



ん

お

お

お

お

お

ん

「あー……いいね。ちゃんとザーメン中出しでイケたね」

「いい肉便器に育ったね、直葉ちゃん。えらいえらい」

「んおお……」

んおおお……

ガッガッ

ドクドク



「さて、いい具合に乳首も育ってきたし——」



「それじゃあそろそろ行ってみようね」

「む、無理……そんなの——」

「オジサンが手塩をかけて育てたんだよ？
ぽっちりの美乳首からぐぱぐぱの奇形変態乳首まで」

「いい加減味合わせてもらわないと割にあわないだ——」



「るるー!」

「お胸をさすのさあー!」



「ああ〜……乳腺を押し広げて、突き破るこの感覚最高お〜……」
「あぐっ……あつ……！」

「直葉ちゃん大丈夫？ 大丈夫だよね、直葉ちゃんは淫乱肉壺だから」

「こんな肉体改造にも快楽を覚えるそんな子だもんね」
「まったく、違法薬物様様、だな」

あぐっ
あつ



「直葉ちゃんごめんね、この乳首、もう元に戻らないんだ」

「これから直葉ちゃんの右乳首は永遠にチンポケースだよ」

「ほら、容赦なくピストンするから頑張って耐えてね」

「無理矢理作った乳首穴から乳内をこすりあげるのほんと気持ちいい」



「ペニスが中をこするたびに、ことごとく乳腺の機能をダメにしてるのわかる？」

「まともな母乳も作れずに、ただ気持ちよくなるために濡れていく乳穴だ」

「どこでもチンチンを啜えられて幸せだね」





「こっちにも出すよ!美少女のおっぱいをするニプルファック最高っ……………」
「精液で乳内も汚染っ……………」



「ふ〜……」

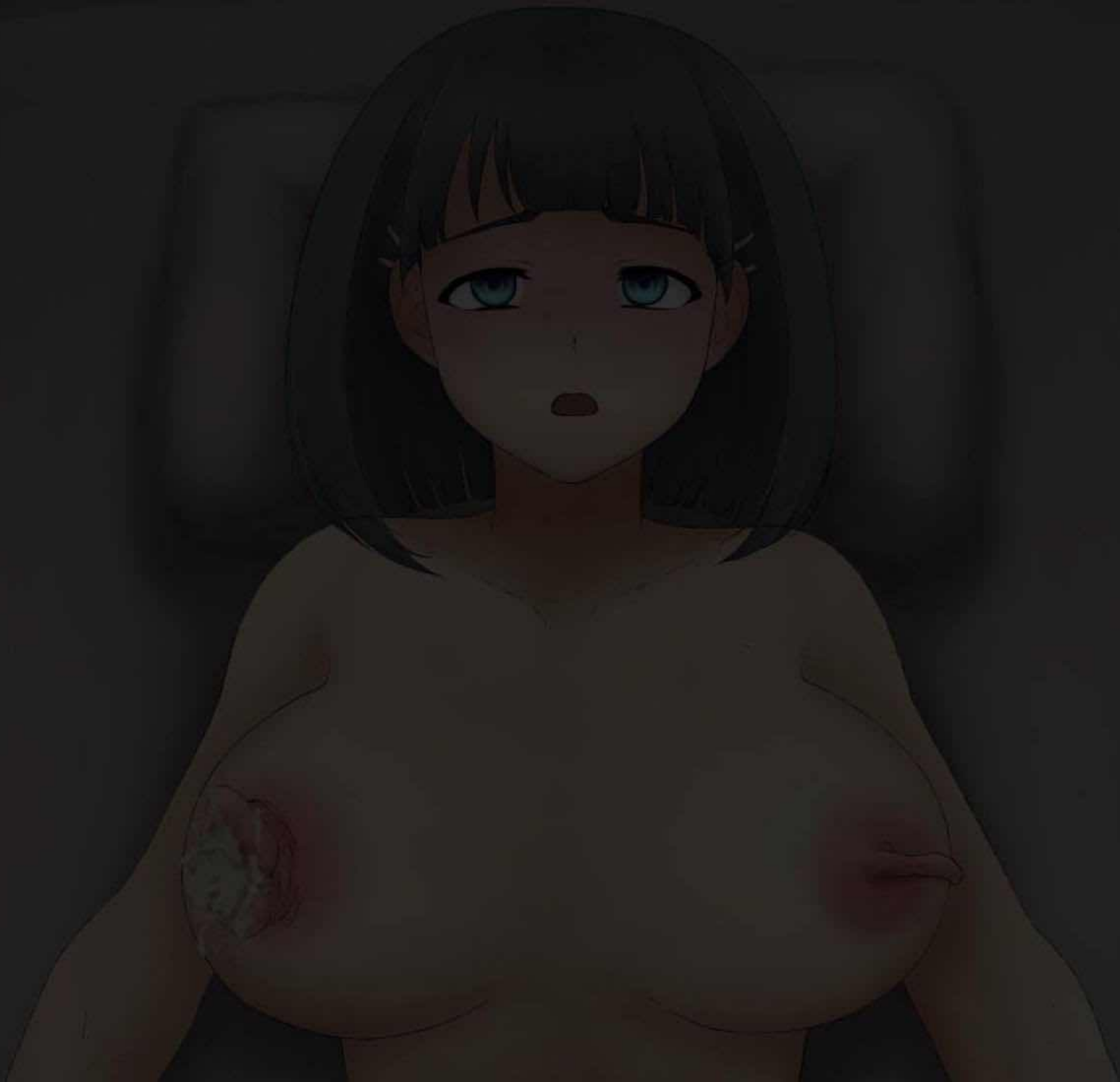
「これで見事ながば穴チンズリ乳首だね」

「もう他の男の子が見たら直視できないくらいの立派なグロ乳首だ」

「わかる？もうすぐはちゃんはまともな恋愛のできない
おじさん専用肉便器になったんだよ」

「キモオタオヤジの肉オナホになれてうれしいね」





「はいごめんね直葉ちゃん、拘束させてもらってるよ」

「な、にを」

「申し訳ないんだけどおじさん飽きつぽくてね」
「そろそろ直葉ちゃんて遊ぶのももういいかなってさ」

「あ……私、やっと、解放される……?」

ケキ
キキ

「でもおじさんね、捨てるにしたって自分のオナホを
他人に使われるの嫌なのよね」

「だから最後に、直葉ちゃんの身体使いつぶそうと思うんだ」

オィ
オィ
オィ

「おんね」



「これ、おっぱいが大きくなる薬なんだけど」

「不良品でね、サイズの調整が効かないから奇形にしかならないんだよね」

「これを遣えば直葉ちゃんはまだもうまっとうな女の子として生きていけなくなるわけ」

「これで直葉ちゃんはまだもうまともな男の子には相手にされない、

人間扱いもされないかな」

「いくなれば性奴隷以下の肉塊、だね」

「美少女の末路としてはこれ以上ないよね。ホント興奮する」



「いや……私なりたくない……」

「うん？直葉ちゃんになりたいかどうかよりおじさんがそうしたいかだからね」
「おじさんがそうすると気持ちよくなれるっていう話だから」

「あ……」

わんわん





「あ、あのね、私、捨てちゃうにはもったいないと思うの」

「はい」

「私、他の子よりずっとエッチでいやらしい身体してるでしょ……?」

「これから女子高生になって女子大生になって……どんどんエッチになる」
「わ、私、へ……変態だからっ! おっぱいももっといやらしくなるし、
そうなるよう努力するしっ」

「私もっとおじさん好みのエッチなメスになると思うんだ」

「そんなことしなくても私の身体、一生おじさん専用だよ」

「もっとなくさんエッチなこと、わ、私にしてほしい」

「もっとおじさんのザーメンミルク飲みたいの。お口でも、おっぱいでも、
おしりの……アナル、ケツマンコでもっ」

「オマンコにもいっぱい注いでほしいっ」

「私の卵子好きにしていいからっ!」

「おじさんの精子に輪姦されて何人孕んでもいいからっ!」

「ね? 私にザーメンいっぱい中出ししよう……?」



「だから……」

「んー、それはまた素敵なご提案」



「でも正直、子供とか興味ないんだよね」
「女の子を無理矢理孕ませるから興奮するんだ、わかるかな」

「つまり、僕は君が自分の変わり果てた身体に絶望するのが見たいんだよね。
ごめんね」

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ





「それじゃ、じわじわ膨らんでくおっぱいの感覚を楽しんでねー」

「ああ……やだあ……」





「あーミチミチになった胸にちんちん突っ込んでググググググするの気持ちいい」

ググググ

ズンッ

ググググ

ググググ

ガガガガ

「すっかり下品なおっぱいになったね」

「うおおお、選別のドロドロザーメンイクッ!」





「ふう……美少女の身体使いつぶして出す精液は最高だなあ」
「どうだった、直葉ちゃん。気持ちよくなれたかな」

おはな
おはな
おはな

おはな

「あ、最後に。快感がたまると
その勃起乳首からミルクどぴゅどぴゅするようになってるから」

「射精感——射乳感?——しっかり楽しんでねー」

ドムッ...





「んんう、んおおおお……」

「うん気持ちよそそうで何より」

「あと少ししたらその乳首もまだまだ黒ずんでくと思うし」

「性処理廃棄物として何も考えずに快感に浸っているといいよ」

「それが一番幸せだと思うから」





「それじゃあね」







END